

社会奉仕の価値を理解するための僕の旅

(原文は英語)

イアン・ハリス・ハシム (15 歳)

マレーシア・クアラルンプール市

チェムパカ・インターナショナルスクール

価値観は人生に明確な目標を与えてくれる。前向きな価値観は日常のさまざまな場面での振る舞いや行動の指針となり、通常は僕たちを良い方向に導いてくれる。正しい価値観を持つことで人生の進路、つまり、自分たちの行動、人との関わり方や人への対応の仕方、自分の人生に大きな影響を与える重大な決断の仕方が決まる。価値観は社会において重要な役割を果たしていると僕は信じている。そして、活発な社会の一員として、社会奉仕・ボランティア活動・チームワークという価値観はとても重要だと思っている。これらの価値観は、健全な良い地域社会の基礎となる。人はその人が育った社会によって形作られると僕は信じている。人は経験から学び、価値観によって導かれる。その人が優しいか意地が悪いか、正しいか間違っているか、それら全てを決定するのは、その人が生きてきた環境である。なぜなら環境がその人の性格を形成するからだ。

僕が大切にしている価値観の一つに「社会奉仕」を挙げたが、僕にとって社会奉仕とは、自分のコミュニティでの取り組みや運動に協力したり貢献することだ。少し無理をしてでも他の人のために何かをすることは、大変な努力と意欲を必要とすることだと言う人もいるだろうし、誰もができることではない。僕も以前は、自分の問題ではないことや自分には関係ないことであれば、無視して放っておけばいいと思っていた。しかし、僕の人生を変えた、ある奉仕活動に関わったことで、僕の考え方は変わった。

新型コロナウイルス感染症大流行の第1波が来た時、マレーシアは完全に封鎖された。仕事や学校、用事を済ませるためであっても、不必要に家から出るとは許されなかった。ウイルス感染から身を守るため、家族は自宅待機を強制された。この方法はしばらくの間はうまくいっていたものの、国内で予期しない悪影響が、特に社会経済的な面で起こり始めた。多くの人は働けないために、日々の生活に苦しんでいた。低所得者層の人々は最も大きな打撃を受けた。影響を受けた人々の悲痛や絶望の叫びでニュースは埋めつくされた。

この出来事は僕をととても苦しめた。多くの家族が空腹に苦しみ、家賃やその他の支払い、あるいは生活必需品の購入ができないことを考えると落ち着かなかった。うちの家族はこれらの問題を回避することができていたため、僕は家で快適に過ごしていた。自分の周りで起きている問題を無視し、隔離された気楽な世界の中で過ごすこともできたが、どうしてもこのことが頭から離れなかった。

そこで、僕は何か行動を起こそうと決心した。弟と一緒に、困っている人たちを助けるための資金を集めるため、オンライン募金運動を始めることにした。パハン州にある児童養護施設を支援するための寄付金を、友達や家族から10リングット（2.50米ドル）という少額から集められたらと思い

「@The10RinggitProject（10リングットプロジェクト）」というInstagramのアカウントを立ち上げた。募金運動は成功し、1週間で16,000リングットを超える寄付金が集まった。児童養護施設にこのお金を渡した時、これが施設の負担を軽くするのに役立つと、僕は幸せな気持ちでいっぱいになり、もっと人を助けたいという気持ちになった。

それ以降、僕たち兄弟はさらにいくつかの募金運動を立ち上げ、病院や児童図書館、洪水被災者などの救済に役立てた。この2年の間に、140,000リングットを超える資金を集めることができ、その全額をそれぞれの寄付先に送った。その効果はとても大きかった。僕たちの元には、児童養護施設への真新しい家具・本・洋服、病院への機器、そして図書館への本や設備など、僕たちの運動によって購入できた物の写真が届いた。しかし、その写真の中で僕の目を引いたのは、たくさんの新しい品々ではなく、それらを受け取った人たちの感謝の気持ちが込められた輝く笑顔だった。それを見て僕は「社会奉仕」という価値観を大切にすると決めた。社会奉仕に参加することで、僕は自分のコミュニティに恩返しすることができ、他の人の人生に良い影響を与えることができる。それによって、僕は誇らしさを感じ、今後も続けようという意欲がかきたてられるのだ。